2019年2月3日（土）

アジア太平洋障害者連携フォーラム2019

セッション３　「国境を越えた障害者のネットワーク構築が生み出す価値」

**黒田**／昨日に引き続き、多くの皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。このセッションのテーマは、「国境を超えた障害者のネットワーク構築が生み出す価値」ということです。

パキスタンのマイルストーン障害者協会のシャフィックさんにもお越しいただきました。シャフィックさんとの関係について、メインストリーム協会代表の廉田（かどた）さんにお話いただきます。そして、名古屋学院大学教授で元ユネスコパキスタン支部代表であった長田先生にコメントをいただきながらパキスタンの国内ネットワーク、パキスタンと日本、他のアジア地域とのネットワークについてご説明頂きます。その上で、ネットワークと協働、コラボレーションの力とインパクト、またインクルーシブな社会の実現のために、私達一人一人が何をしたらいいか、考える機会になれば良いと思います。まずは長田さんにご発言をお願いします。

**長田**／シャフィックさん、日本にようこそ、お会いしてからもう５年経っていますね、会場の皆様とはまず一般的なことをシェアしたいと思います。（スライドの）右上の方に有るのがパキスタンの青い旗ということで、イスラム教の新月がついています。左下は障害者のマークでパキスタンや中東で良く使われています。

パキスタンがイスラム教の国ということをご確認ください。パキスタンは多民族、シンド人、バローチ人などの色んな国の人種がいる国です。言語的には、国の言葉として、ウルドゥー語という言葉を使っています。国の言葉（国家語）でありながら、ウルドゥー語を母国語とする人は（人口の）8％程度だそうです。一番多いのは、パンジャブ人です。シャフィックさんはパンジャブ人で母国語はパンジャブ語だそうです。10人に１人ぐらいの母国語が国家語という変わった国。国というよりは、1つの共同体ということです。

10歳以上の識字率は2015年の古い統計では、58％であり、約6割程度の方が字を書いたり、読めたりします。特に高齢の方に多いのですが、４割の方は字が読めない。ちなみにシャフィックさんがいらしたパンジャブは一番発展していますので、この統計よりも高い識字率と思います。政治的には国会があり、議会があり、日本と同じ民主主義制度で単独政権のアラブの国とは異なります。

SL長田＞２，３

パキスタンで障害の原因に貧困があります。栄養失調、特にビタミン不足、障害になると医療へのアクセス不足の問題があります。特にパキスタンではポリオ、小児麻痺ワクチンのための予防注射が行き届いていません。パキスタンは、世界最大の小児麻痺発生国です。イスラム教の過激派が、ポリオの予防注射を嫌っています。交通事故や近親結婚が多いことによる遺伝性の障害もあります。

女性への差別とか暴力、男性への暴力もあります。障害者になってしまったら家族が貧困になります。学校に行けない、就職できない、結婚、社会生活できない。バリアフリーが行き届かず、障害者への社会的差別、とくに障害女性にはひどい差別があります。法制度がまだ不備で実効力も乏しい。

このデータは古い国勢調査（1998年）ですが、全人口の2.49％が障害者です。新しい国政調査では人数が減っています。実際の障害者の数が統計に反映されていません。女性障害者の数が圧倒的に少なくカウントされている傾向です。国内的にはおそらく531を超える特別支援教育学校が存在します。また200以上のＮＧＯや障害者団体が障害児の教育を支援しています。

第18次の憲法改正により、各州の自治が強化され、国家レベルでの「障害者福祉省（※）」 は廃止され、障害者の教育や福祉は各州の権限に移されました。これによって州や民族間の格差が出て来ます。農村と都市部でも圧倒的な格差があります。

※***日本で言う厚生労働省***

SL長田＞４，５，６，７，８

障害者支援の法律は、有名なところでは2006年につくられた障害者に関する国家政策や2009年につくられた公共の交通、バリアフリー交通に関するものがあります。私がパキスタンを離れた後のことなので詳細は解りかねますが、現在、差別禁止法に向けて努力が成されています。障害者権利条約（CRPD）は私がユネスコパキスタン事務所長をしていた2011年に調印しています。

SL長田＞９

ネットワークインパクトについて若干述べさせて頂くと、ダスキンによる障害者の国際的ネットワーク、アジアのESCAP(The United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific)、APCD(Asia-Pacific Development Center on Disability)などを通じたものも重要です。またシャフィックさんのようなキャパシティの高い方は、ネットワークを駆使してお金をばっちりとってくる。ワールドバンクからばっちり獲りました。権利条約の国際会議等では他の国とのネットワークが大事です。ネットワークをつくって、ソーシャルキャピタルを形成する。パキスタンにもCBR（Community-based Rehabilitation）とか、CBID（Community-based Inclusive Development）などのネットワークがカラチのそばのシンド州の方などでやっておられます。

SL長田＞１０

**黒田**／パキスタンの障害者の問題やその他の問題の概要についてお話をいただきました。ネットワークに関するお話もありましたが、このあと2001年より、ダスキンアジア太平洋障害者リーダー育成事業に参加され、現在マイルストーン障害者協会の代表でおられるシャフィックさんよりお話を伺います。パキスタンでは大地震も起きましたが、そういったことを乗り越えて、自立生活センターを作られ、パキスタンの障害者運動で重要なお役目を果たされている方です。

**シャフィック**／障害だけにについてフォーカスするのでは無く、一般社会についてもシェアしたいと思います。

我々の人生のはじまりです。皆さんはここで始まります。生まれた時、食べられず、歩けません。

世界を変えることはできません。全員がこういう始まり方をします。ネットワークというのは、男性、女性というように異なったものとして始まります。その後さらに道路のネットワーク、携帯電話によるネットワークなどと多様化します。日々のなかで、たくさんのネットワークに接しています。ネットワークは、どのようなライフサイクルにおいても重要です。私にとって良いネットワークとは、連携を必要とするものです。連携というのは常に異なった形、力、対象を持っています。様々なパートが相まって連携が生まれます。それが良い連携があれば、ネットワークもスムーズに動いていきます。

SLシャフィック>2,3

インクルーシブな社会とは、様々な人生が連携をしていき、そして円滑な社会に繋げていくことです。持続可能な形で社会を作る。1つの形として、社会起業家などがあります。自立生活運動などが新たな起業を生み出し、ビジネスの機会やサービスを生み出していきます。自立生活運動を可能にする持続可能な力にもなっていきます。パーソナルアシスタントサービス、ピアカウンセリングなど、様々な活動を社会起業家の活動に連動させます。

私達は幸運だったと思います。ダスキンのリーダーシッププログラムに参加するという機会を得て、私の先生であるヒューマンケア協会・中西代表、メインストリーム協会の廉田代表との連携、関係構築ができました。障害者運動についてDPI（Japan National Assembly of Disabled Peoples’ International） やアジア太平洋のネットワークなどを作ることが出来ました。国際的な障害者活動についても知識を得ることができました。また以前、パキスタンの空港で車椅子を直している人に出会いました。さいとう工房の斎藤さんです。自分の仕事に情熱を持っています。彼のサポートがあって、車椅子を作ることになりました。今では電動車椅子を作れるようになっている。

JICA(Japan International Cooperation Agency)、JIL（Japan council on Independent Living）の方々の支えもありました。500台の車椅子を提供していただきました。そして電動車椅子を使っている人が500人以上います。パキスタンの街ラホールには、バリアフリーのバスが走ることがあります。これはJICAのプロジェクトの結果によるものです。これらは全て、ネットワークから始まって来ており、そして連携につながり、そしてインクルーシブ社会につながっていくと思います。連携によって、知識、経験の共有によって社会が作られていく。人の再生支援、技術支援などが日本から寄せられています。

⑪そういった連携による強力なネットワークが、パキスタン、あるいは日本における障害者運動の後押しをしています。私の組織であるマイルストーンだけでなく、他の様々な組織が日本の運動に影響を受けています。パキスタンではCBR、IR(Integrated Rehabilitation) など様々な方向に向けて活動しています。でも道筋が違うだけで目的地は同じで 障害者の自立生活です。競争する必要はありません。

長田さんがさきほど触れました。このネットワークは新しい哲学や理念の共有よりも、リソースや結果、あるいは技術さえも共有していくという考えです。これによって、パキスタンの障害者運動に大きな協調、ハーモニーが生まれました。パキスタンの障害者運動は非常に円滑に進行しています。法律も出来ました。パキスタン障害者法というものです。今年、できればこの法律が施行されることを願います。皆さん、短いビデオを見ていただきたいと思います。このビデオはマイルストーンの活動について述べたものです。

SLシャフィック＞４，５，６

（ビデオ放映）

私たちこの中に入っているものは、すべてネットワークで、マイルストーンとパキスタンの活動がつながってできたものです。教育レベルはまだ低く、施設もまだ少ないですが、それとは関係なく、人々が力を合わせる必要があります。我々はこういう機会を活かします。必要なものは教育、トレーニング、リソース、そして夢です。障害者運動から、これらを作りたいと思います。ありがとうございました。

**黒田**／ネットワークの話をしてくださいましたが、共通の目的があることがすごく重要だと改めて思いました。障害者の自立生活ということだったと思います。こうしたお話、マイルストーンの様々な活動を見せていただきましたが、その原点ともなったと言えるダスキンの研修ですね。この後、2001年から2002年の間シャフィックさんを受け入れ、研修後も支援を続けている、メインストリーム協会代表の廉田さんに話を伺います。支援という言い方は、あまりされないということですが、アジアの仲間とともに活動をやって来られているとのことです。

**廉田**／西宮市でメインストリーム協会という自立生活センターをしています。2003年にアジアに自立生活センターをつくる手伝いをすることになりましたが、そのきっかけがパキスタンでした。まず2001年12月頃にリハ協（日本障害者リハビリテーション協会）さんから研修生を誰か受け入れて欲しいと依頼されました。メインストリーム協会では、１週間、２週間の単発的なものはお断りしています。理由は、先生と生徒みたいに、大事なことだけを伝えるのなら本でも読んでもらえば良い、人間関係を作るのが大事。最初は一緒に遊びまわって仲よくなり、１か月後から話をしてくというのが、うちのやり方です。そしてパキスタンから来たシャフィックさんを受け入れたのですが、彼が真面目過ぎたせいなのか、「この自立生活センターの部屋には幽霊が出る」と言って1か月足らずくらいで帰ってしまいました。残念に思っていましたが、その後の５月頃にもう１回話をしようとなりました。その時、彼は自立生活センターに興味を持っていました。多分、他のセンターが上手に関心を持たせたのだと思います。うちではないですよ。とにかく、自立生活センターをやりたいので一旦パキスタンに来て欲しいということでしたが、その時はあいまいな約束のまま終わりました。

その後、DPI世界会議が札幌であり、そこでシャフィックさんと再会し、４～５日間、ホテルの同じ部屋で朝までずっと話をしました。そこで自立生活センターをやりたいのかと聞いたら、その時はまだ悩んでいて、大学の先生もやりたいと言っていました。「片手間で出来る仕事ではない。大学の先生なんかやめておけ」と言いましたが、彼にも生活の糧が必要ということでした。それで「彼が必要とする生活費は出す」と言いました。始まりはそんなレベルでした。それが（2002年の）10月くらいであり、2003年の2月にパキスタンでセミナーをやることになりました。必要資金60万円の半分の30万円を私達がサポートするかたちで開催することになりました。3回の大きな出会いによって、パキスタンに行くことになりました。パキスタンの人達の話は割り引く必要がありますが、「障害者でもスポーツなどで多くの人が集まることはあるが、人権やワークショップというテーマでこれだけ集まるセミナーはパキスタンの歴史が始まって以来のことだ」とまで言いました。自分も自立支援とか、自己決定という概念を海外に伝道師として伝える活動は、面白いと思いました。それが始まりで、事務所を借りて、活動をすることになりました。

**黒田**／引き続き質問という形で廉田さんにお聞きします。ダスキン研修事業は社会的インパクトをもたらすと感じます。その点についてのお話と、研修後の関係の継続についても、お話しください。フォローとか、支援という言い方はあまりされずに、お友達のようになっていくとおっしゃっておられました。

**廉田**／ダスキン（愛の輪基金）は良い事業をされていると思います。私達も面白く関わっています。フォローアップは弱いところと思いますが、研修の後に自立生活センターを作ることになったら、自分たちの出番かなと思って関わっています。メインストリーム協会にはダスキン（愛の輪基金）さんの研修生が毎年来ていて、韓国、ネパール、カンボジア、モンゴルと色んな国の人が来ています。昨日ここで話しをしたサミスさんやリンさんもそうです。メインストリーム協会を通して色んな国と連携できています。

しかし、いつまでも自分達が先生ではなくて、すぐに追い越されます。アジアのメンバーの方が頭が良くて、こちらが学ぶことも多いです。2007年に韓国のソウルで開催されたDPI世界会議にダスキン研修を受けた仲間達が招待されました。そこで「ダスキンから生まれたアジアの自立生活センターのネットワークを作らないか」という話になりました。メインストリーム協会から生まれたと言いたいところですが、元々シャフィックさんが言い出して、今は「志ネットワーク」という名前で活動しています。例えばカンボジアに行って、セミナーやトライという自立をアピールするイベントを開催しています。各国で活動するようになって、ネットワークが出来上がって行きました。ネットワークというと大袈裟な感じですが、よく考えたら、友達の輪というか、仲がいいから応援する、それだけの集まりです。大家族のような感じの気軽なネットワークです。

**黒田**／確かに、奇跡のような素晴らしい事例と言えますが、これはメインストリーム、マイルストーンだからできたのか、あるいは、こういうネットワークは他でもできることか、既にあるのか、課題も当然あると思います。長田さんに、一般論にひきつけてコメントをいただきたいと思います。

**長田**／誰でもできるかというと半々だと思います。ネットワークを構築する上で何が必要か。お二人は面白く話されましたが、その裏にあるものが何かを得るために一生懸命話を聞きました。やはり、まずは人、そして金と技術。人というのは確かに廉田さん、シャフィックさんのように個人のリーダーシップが必要です。それがないと先が続かない。意外に忘れられますが、２番目にお金。ネットワークというとタダように感じますが、ネットワークには資金が必要です。お金を調達するメカニズム無しにこれを継続することは難しいです。3番目は、先程いった電動車椅子など技術ですね。日本は、技術的な情報提供をする必要があります。この人、金、技術がバックにあれば、ある程度ネットワークは成功すると思います。しかしパキスタンは大きな国で、日本の人口の二倍です。多民族が住んでおり、国を超えたような存在です。パキスタンの障害者リーダーで印象的な人は、こちらのシャフィックさん含め何人かはおられますが、やはりリーダーシップを備えた人間がまだ少ないと感じます。リーダーシップがまず必要であり、（それ無しには）ネットワークは成功しません。シャフィックさんはネットワークを使ってお金を引っ張るのが得意な方ですが、ネットワークはお金がかかります。日本で会議をやって、はい終わり。お金がついたりつかなかったり。次にいつ会えるかわからないなどというのでは困ります。後のセッションで、資金的なサポートが出来そうな人の話しが出ると思います。

**黒田**／人、お金、技術、本当に必要だと思います。こうしたことをしっかりやっていかねば継続は難しいと改めて思いました。会場にいらしている方も、聞きたいことがあると思います。いかがですか？

**質問者A**／シャフィックさんがワールドバンクから資金を獲得したことを聞きたかったのですが、どういう工夫をされたのかについて教えてください。あと、シャフィックさんが手がけている世界ILネットワークの状況についても教えて貰えますか。

シャフィック／2005年にパキスタンでは大地震がありました。そこで、たった47秒の間に8万人の人が亡くなり、1万5千人が障害者となりました。そのうち750人ぐらいが、脊髄損傷になりました。パキスタンでは、十分な医療システムが無いため、障害者、脊髄損傷の方が取り残されてしまい、亡くなりました。JIL（全国自立生活センター協議会）や他の関係者に依頼して器具を送って頂いたり、脊髄損傷の助けとなる協力を得ました。私たちの活動は、すぐに国の気づくところとなりました。世界銀行パキスタン国別局長が来てくれました。マイルストーンでは、新たに障害者となった方に向けて自立生活の理念などを導入して、自立生活を後押しすることができると思いました。

それで医者との共同により、脊髄損傷の人を受け入れて合宿所のようなものをやり、被災地の学生も呼んで、自立生活という考えを共有しました。そして、日本のヒューマンケア協会、政府関係者、厚労省の方も私たちの合宿キャンプに参加してくれました。それでパキスタン政府も関心が掻き立てられました。ジョン・ウォールが関心を示したことも理由です。こういった様々なネットワークが社会開発基金を得るよすがとなりました。当時私たちは、年間11億ルピアを使って150の車椅子、600の携帯電話を聴覚障害の方に提供しました。そして、ろう者のグループの方の支援をもしていきました。この基金、活動を通じて今、30以上の自立支援センター、300以上の障害者団体ができています。まず自助の組織ができること。能力開発に繋がり、障害者団体ができ、ゆくゆくは自立生活センター設立の流れになると思います。税金をつかってコミュニティで活動していくやり方もありますが、私たちはチャリティーモデルをパキスタンで立ち上げました。

日本の障害者運動は本当に大きな意味をもちます。パキスタンは人口が多く、リソースは少ないです。でもいつか日本と同じように沢山のことを達成できると信じています。アジアの立場から日本を見ると、日本は今、障害者運動のセンターでありベンチマークだと思います。アジアだけでなく、世界にとってもです。人材や知識を他国に出しているところは、世界を見渡してもありません。他国の障害者をエンパワーするのは日本だけです。他の国にでかけていき、車いすを作っているのは日本以外にありません。

それでも残念なことが１つあります。日本の障害者運動というのは、もっと世界に力強く訴えて良いと思います。大きなツールを持ち、向かっていくことで、より財政的利点、社会的な利点が生まれると思います。世界の10％、10億人が障害者です。巨大な消費者市場です。それをなぜビジネス観点から見ないのでしょうか。つまり、新しい社会的市場です。これを使って、新しい経済リソースを人類にもたらそうではないですか。日本の皆さん、自国の障害者運動を、是非世界に示していってください。私達もパキスタンで障害者運動のリーダーとして活動して行きます。最後になりますがダスキンからの助成に感謝申し上げます。

**黒田**／最後に、お一言ずつ、これだけは皆さんに伝えたいことをお願いします。

**廉田**／まだ、始まって間もないですが、それでも、アジアに自立センターができ始めて、そのほとんどが日本発信です。中南米でも自立生活センターができています。日本から始まったのですからもっと興味を持って欲しいし、一度見に行って欲しいです。途上国の何もない中で、自立生活センターを立ち上げることは本当に大変なことです。そこで頑張っている姿を見たら、「自分も頑張らなければ」と受け取るものがたくさんです。自分たちが自立生活センター立ち上げた時そうでしたが、やればやるほどお金がかかる。彼らはお金くれとは一切言わないですが、あげる事が失礼かというと、そうではないです。ぜひ訪問して私達と同じ思いを持って欲しいです。

**長田**／シャフィックさんがダスキンの研修事業に参加したわけですが、最初は海の物か山の物かわからなかったと思います。それが大変立派になられ、障害者活動分野ではなくてはならない人に育ちました。ダスキンが毎年出している研修生すべてというわけには行かないですが、10人やれば、その中から少なくとも1人、あるいは2～3人が、帰国して大きな資源となってくれる。ダスキンさんのみならず、今日は民間の方も来られていると思いますが、皆さんにとって人を訓練することも投資なわけです。ぜひ今後も継続していただきたい。お金はものすごく必要です。お金が失礼なんてことありません。30年国連で勤務して分かったのはそれです。人的資源をつくる資金、技術提供の資金。今日来られた方で提供できる方は、継続してサポートしてあげてほしいです。

**司会**／31それではセッション3を終了とさせて頂きます。